

自分だけの
かわいい豆本ストラップを
作ろう！

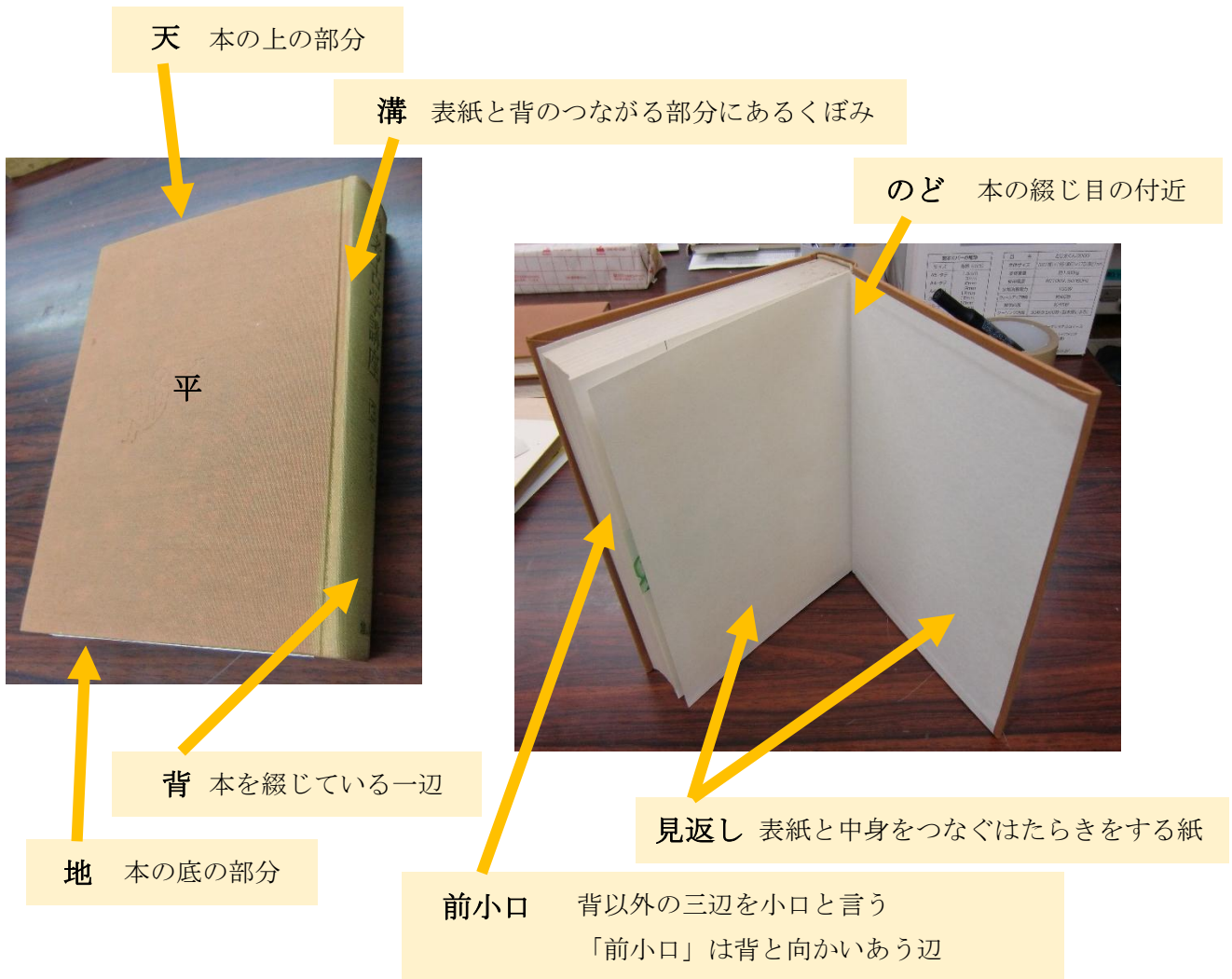


必要な道具

- 本文用の紙（7.4cm×5.3cm）4枚
※A4の用紙を4回半分にしたサイズ
- 見返紙（7.4cm×5.3cm）2枚
※本文用の紙と同じサイズ
- 表紙用クロス（9.6cm×6cm 以上） 1枚
※大きめに準備しておく、見える柄を調節できます。
- 板ボール（3cm×4cm 2mm厚） 2枚・（0.6cm×4cm 2mm厚）1枚
- 厚紙（9.6cm×6cm 以上）
- しおり紐 4cm
- 刺繍糸

- ボンド
- 捨て紙 10枚程度
- 筆記用具
- 布巾 2枚
- 定規
- カッター
- はさみ
- カッティングマット
- ゴムへらもしくは筆
- ボンド入れ
- かけへら
- 串 2本
- クリップ 1個
- 針 1本
- 目打ち 1本
- 目打ちを使う際に下引くもの（電話帳等が良い）
- ストラップ 1個

製本する時に知っておきたい本の各部名称



豆本作りを始める前に知っておきたい紙のこと

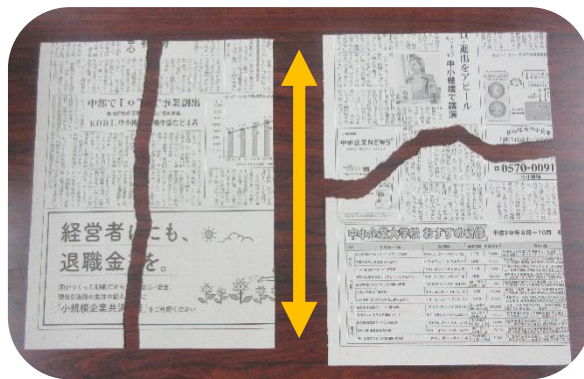
紙の目とは

紙は、抄紙機（紙を抄く機械）でパルプを一定方向に流しながら製造されます。

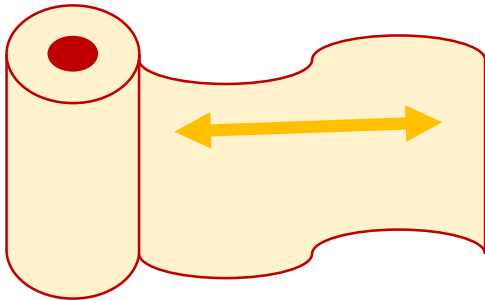
そのため、進行方向に繊維が揃いやすく「紙の流れ目」ができます。できた流れ目を、紙の目と言っています。

紙の目を確認する方法

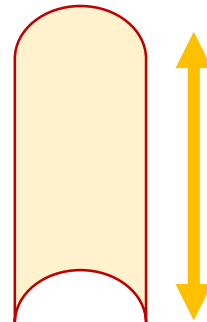
紙を裂いて比較的真っ直ぐに裂ける方向が縦目



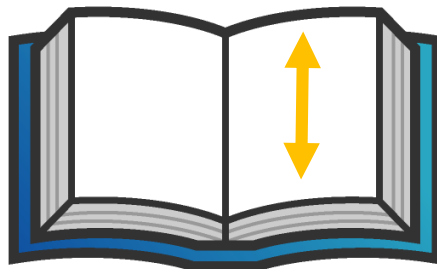
一般的に巻いてある方向が縦目



濡れた時、目と並行にカールする



本は一般的に開きやすいように縦目で作られています。



ですから、豆本を作る場合も、紙の目を意識して、必要なサイズの紙を準備します。

豆本作りを始める前に知っておきたい 美しくサイズどおりに、真っ直ぐカットする方法

豆本作りに限らず、本を製本、補修する際には、mm単位で正確にサイズどおりに真っ直ぐカットする技術が必要です。

美しくカットできると仕上がりがぐんと違います。

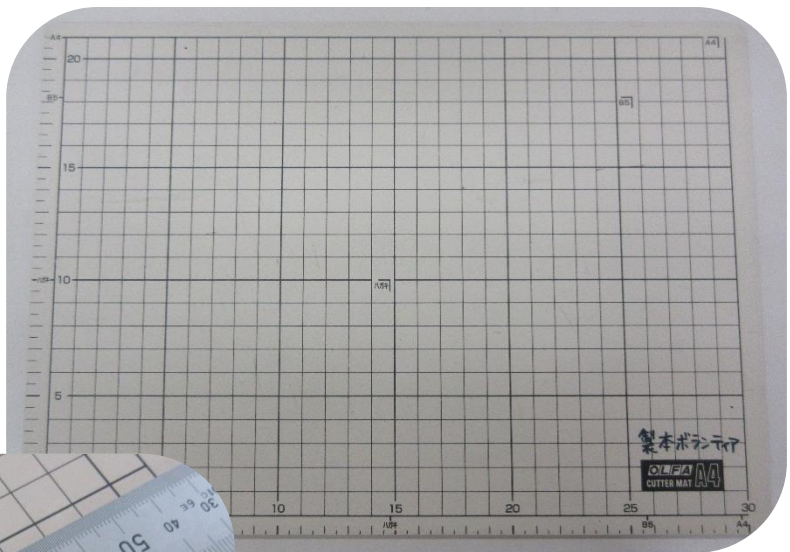
そこで、カッティングマットのマス目を利用してカットする方法を知っておきましょう。

このカッティングマットのマス目は1マス1cm×1cmです。

(5mm×5mmのものもありますので確認してください。)

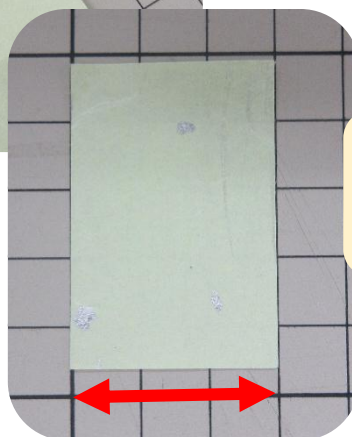
例えば3cm×4cmの紙を切る時は

紙の端をマスの線に
ぴったり合わせる。
紙の端が真っ直ぐで
ない場合は、一度定規
で端を落として真っ
直ぐにして合わせる。

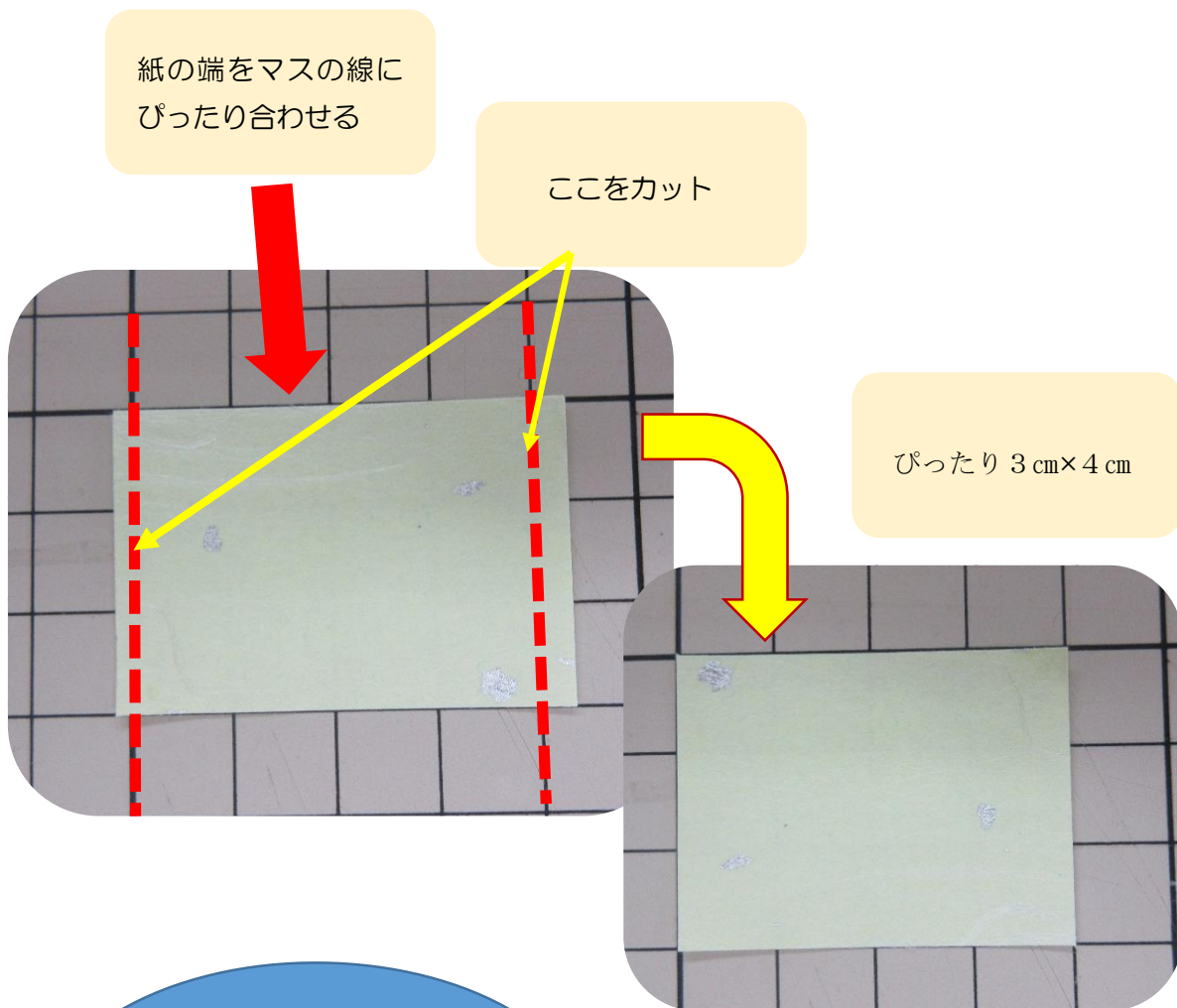


定規を3マス目の線に
ぴったり合わせて切る

ぴったり3cm



3cmの幅に切れたので、4cmにカットします。



**練習あるのみ！
頑張らなう！！**



では、早速豆本作りを始めなう。

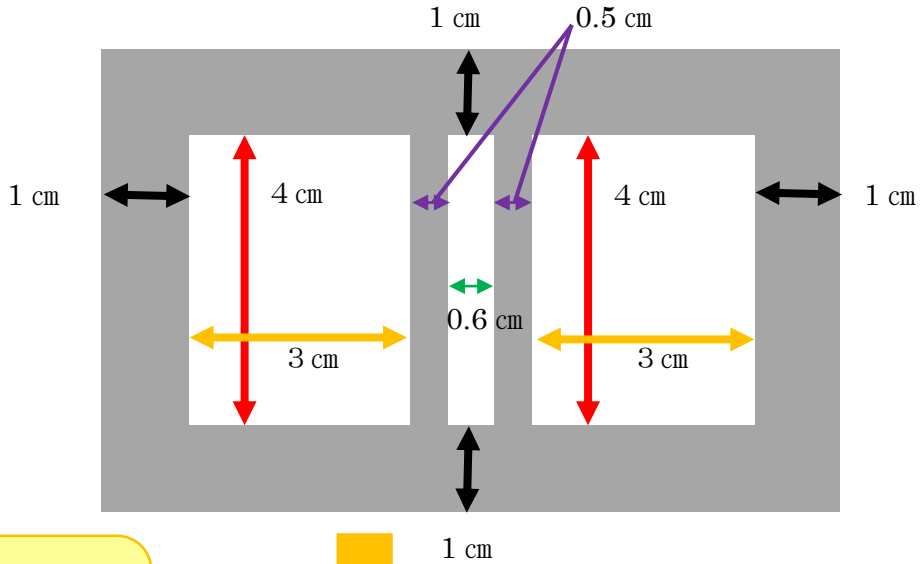
1 ゲージを作成する

厚紙でゲージを作ります。

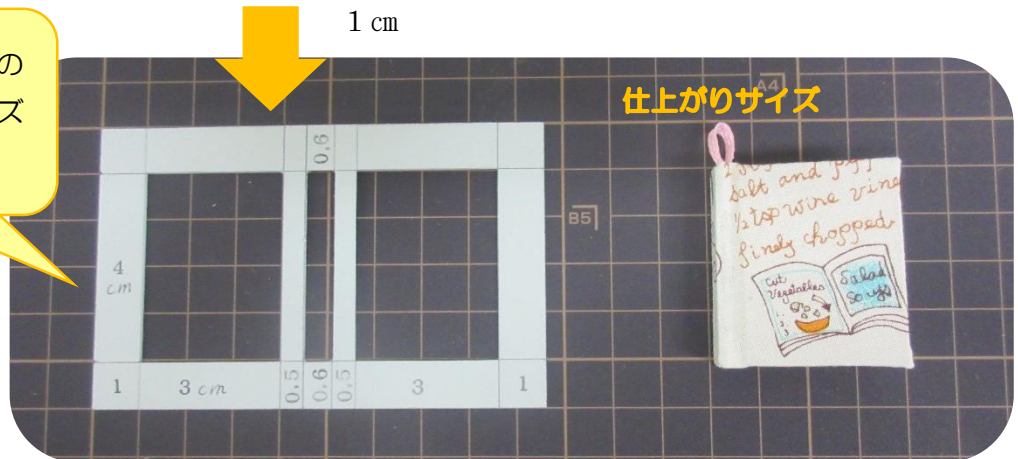
ゲージがなくても豆本は作れますが、作っておくと、とても便利です。

豆本の仕上がりサイズは、3.5 cm×4 cmです。

ゲージのサイズは図のとおり



カッティングマットのマスを使って、サイズどおりに作ります。



2 本の表紙をカットします。

表紙にしたい、布・和紙等にゲージをあて、ゲージの周りにあわせてカットします。

窓から見えている部分が表紙・背・裏表紙になるので、お気に入りの柄が出るようにカットしましょう。



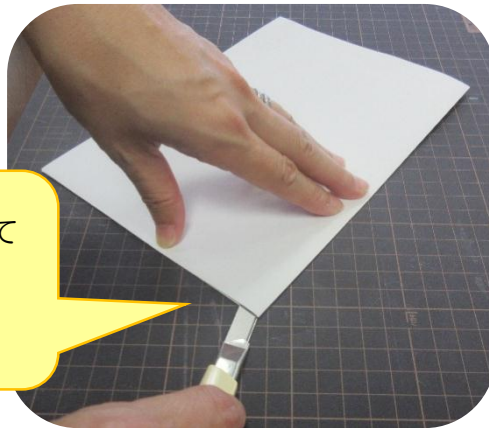
ここはざっくりで大丈夫

3 本文紙を作成します。

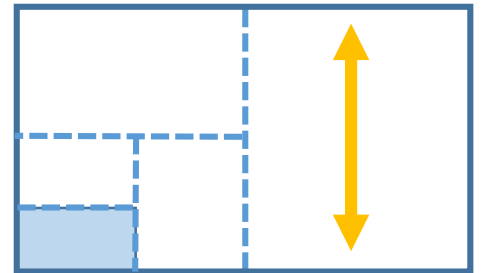
本文は全て縦目で作る事が理想的です。

可能であれば、紙の目を確認して本文を準備しましょう。

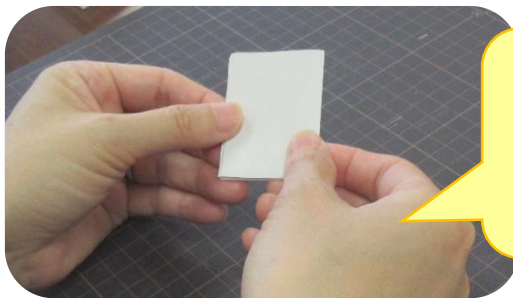
ヨコ目（短辺と平行に繊維が流れている）A4の紙を4回半分にカットしたサイズの紙を5枚・
同じサイズの見返し紙を2枚用意します



化粧断ち（小口を切って
整える事）をするので、
ここはざっくりと。

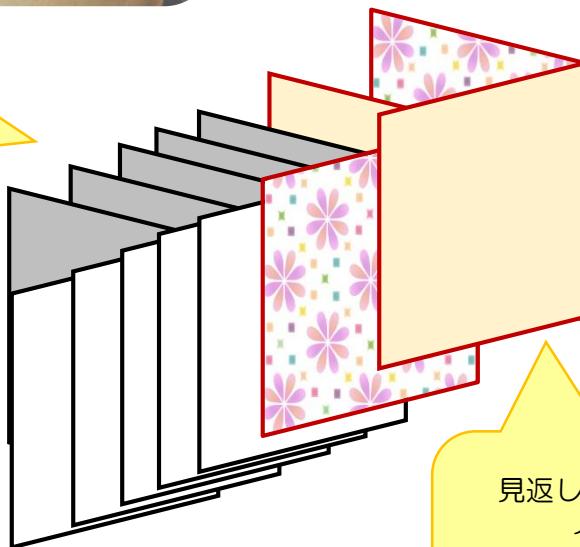


このサイズを5枚



1枚ずつへらを使って
半分に折ります。
ここは丁寧に

本文紙5枚と
見返し2枚を重ねます

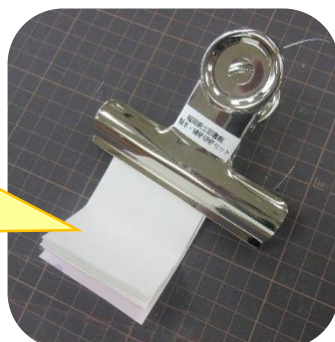


見返しは見せたい柄を
1枚は外へ
1枚は中へ
折って重ねます

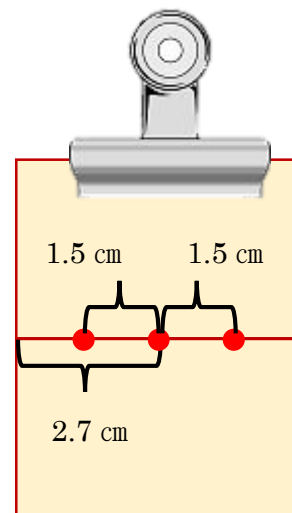
4 パンフレット製本をします。

7枚重ねた折り丁を糸で綴じます。

折り丁を
クリップで止めます



中央 2.7 cm
中央からそれぞれ
1.5 cmに
印をつけます

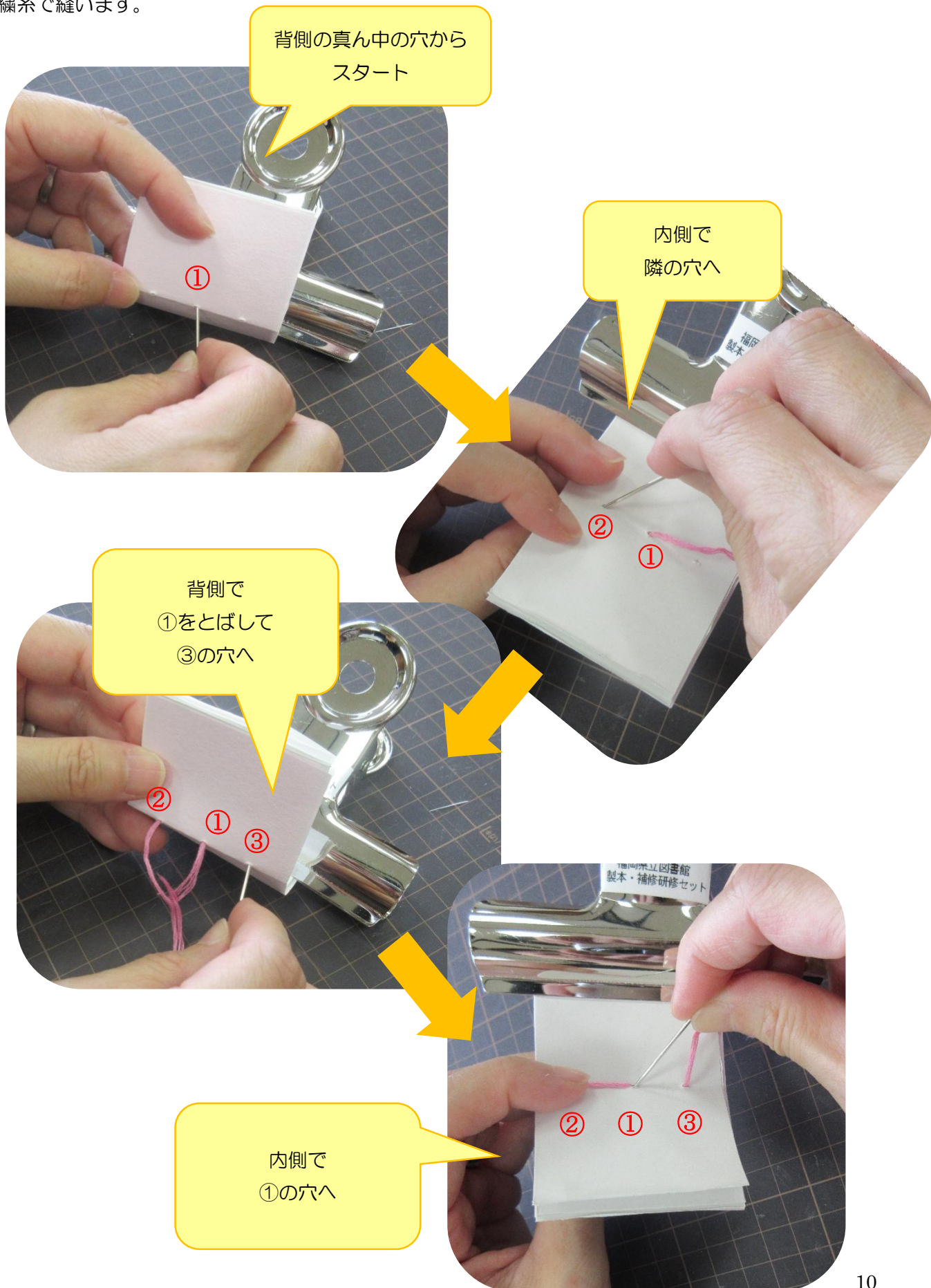


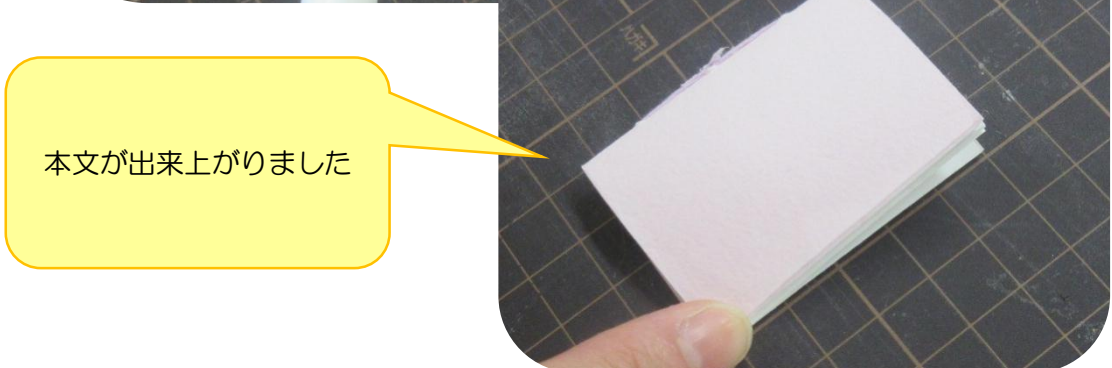
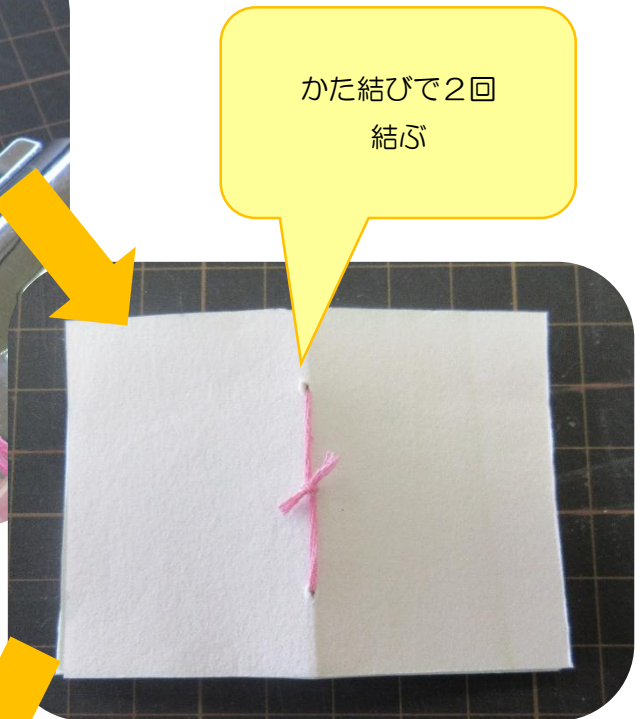
目打ちで印の所に穴をあけます。

90度に折って
あけるときれいにあきます



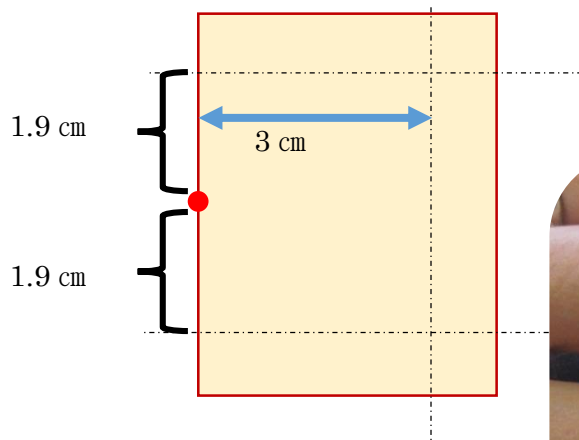
刺繍糸で縫います。





5 化粧断をします。

背から3 cm、結び目から 1.9 cmのところに印をつけてカットします



力を入れずに
一枚一枚切る
つもりで

6 板ボールをカットします。

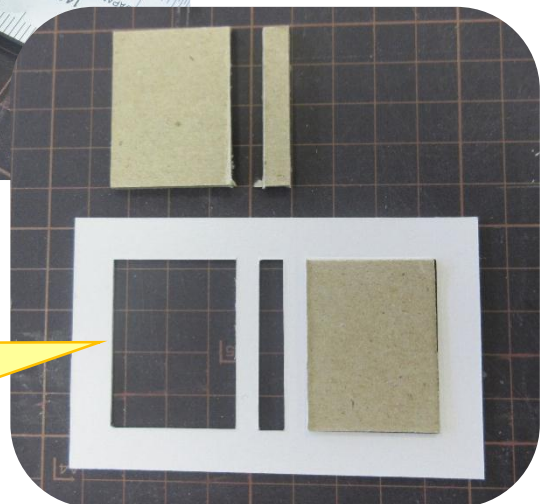
3 cm×4 cmを2枚・0.6 cm×4 cmを1枚カットします。



カッティングマットの
マス目を上手に使う
ぴったりのサイズに切ります

板ボールはとても固いです。
何回もなぞって少しずつ切ると
綺麗に切れます

切ったら、ゲージに合わせてみます。
合わなかったら、サイズが
間違っています



7 表紙を作ります。

表紙にゲージで、板ボールを貼る場所の印をつけます。



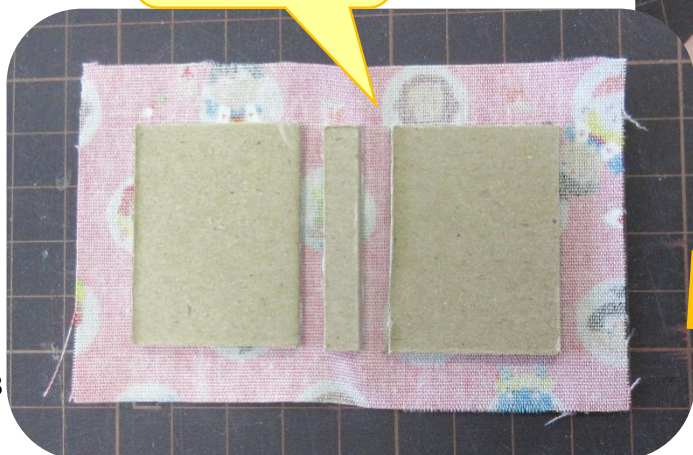
貼る位置が
わかれば大丈夫です



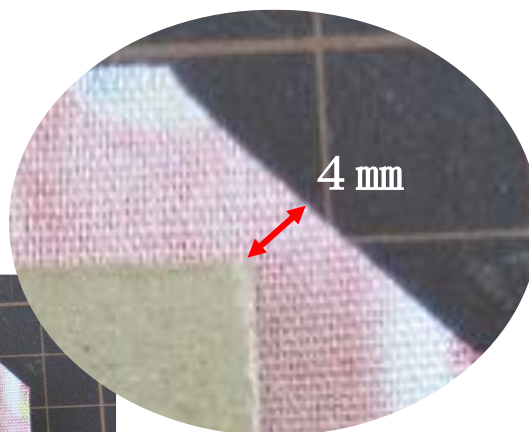
板ボールにボンドを塗ります。
ボンドは水で薄めません。
水分が多いと布から染み出てきます



全て貼ります



角を4mmの所で
カットします



天地をボンドで貼ります。
豆本の下に捨て紙を2枚ひきます。
ボンドは、薄めず、できればゴムべらを使います。

豆本を作る時に、布を使用する場合は、裏打ち（布の裏に和紙等がはってあるもの）してある布を使った方が、綺麗にできあがります。
しかし、手に入りにくいので、裏打ちの無い布を使う場合は、ボンドを薄めずに使う事で、にじみ出る事を防ぎます。大量にボンドを塗ると、染み出てくるので、気をつけましょう。



ボンドのついた紙を捨て、2枚目の紙ごと引っ張り上げ表紙を板ボールに接着する



天地両方貼ります。

角をかけへらで板ボールに
しっかりつける。



角を処理したら、天地同様に
小口もボンドで板ボールに接着する。



表紙の完成

8 しおり紐をつけます。

ストラップにするために、しおり紐を表紙内側の天にボンドでつけます。



クルッと輪になるようにつける



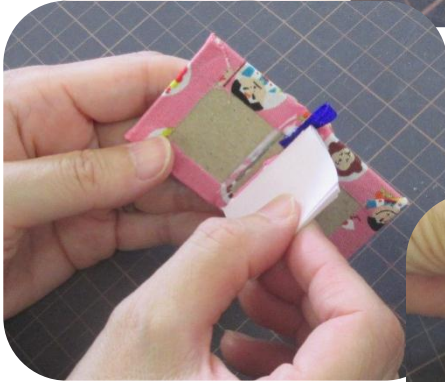
9 表紙と本文を接着します。

ボンドをつける前に、表紙に本文を合わせてみます。
本文が表紙におさまるか
チリが綺麗に出ているか確認します。
本文が表紙から出たり、チリが足りない時は、
本文をカットします。



ミゾにボンドをつけます

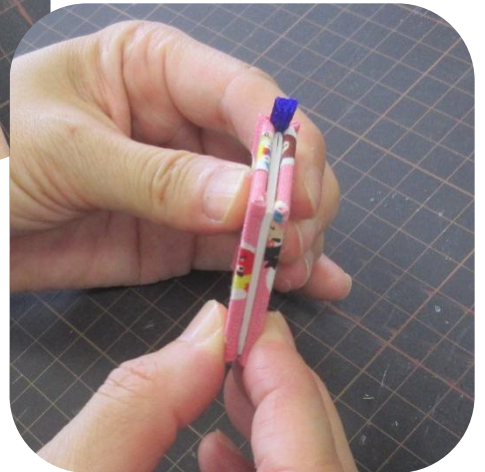
開きを良くするために
背にボンドをつけません



本文を背にしっかり
合わせます



かけへらで
みぞをつけます





ミゾに串を入れ
クリップではさむ

1分ほどそのままです...

10 見返しを接着します。



一番外側の見返しの下に
捨て紙をひいて
ボンドをつけます

捨て紙を外し
表紙をとじて
接着します。



見返しを両方つけたら・・・

ストラップをつけて

完成！！



いかがでしたか？
納得のいく豆本ができましたか？
何個か作ればコツがすぐにつかめます。
最初に作ったゲージを使って、ぜひ何個か作ってみてください。

参考文献

- ・赤井都『豆本づくりのいろは』増補新版（河出書房新社 2014年）
- ・『豆本の教室』（スタジオ タック クリエイティブ 2013年）